



## 臨床的意義のない抗体に対する 抗原陰性血について

2016年4月、全国の血液センターにて抗原陰性血における体制変更が行われ、自動分析機による抗原スクリーニング対象11抗原 (C,c,E,e,M,S,Le<sup>a</sup>,Fy<sup>b</sup>,Jk<sup>a</sup>,Jk<sup>b</sup>,Di<sup>a</sup>) について、手法による抗原確認検査が廃止されました。これは、全国统一の高精度な抗原スクリーニングが維持されてきたことを受けて、抗原陰性血のより迅速かつ効率的な供給を目指すための体制変更です。

中四国ブロックでは、この体制変更に合わせて11抗原以外で臨床的意義のない抗体 (P1,N,Le<sup>b</sup>,Xg<sup>a</sup>) に対する抗原陰性血について、ガイドラインに基づく抗原陰性血の選択をアナウンスしてきました。

日本輸血・細胞治療学会の『赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン(改訂2版)』において、「不規則抗体の血液型特異性と輸血用血液製剤の選択」について記されており(表1)、P1,N,Le<sup>b</sup>,Xg<sup>a</sup>については、臨床的意義はなく、抗原陰性血の選択は必要ないとされています。

また、2016年に発行された日本臨床衛生検査技師会による『輸血・移植検査技術教本』においても、抗Le<sup>b</sup>、抗P1、抗N、抗Xg<sup>a</sup>は「抗原陰性血の選択の必要性がない抗体群」として記されており、これらの抗体がたとえ

不規則抗体スクリーニングの間接抗グロブリン試験 (IAT) で検出された場合であっても、抗原陰性血の必要性はない、と記されています。

医療機関の皆様のご理解により、11抗原以外の確認検査の依頼は大幅に減少しました。しかし、Xg(a-)については現在も月に数件の依頼があります。今後は、Xg<sup>a</sup>についても、より一層のご理解をお願い致します。

抗体の特異性	臨床的意義	輸血用血液製剤 (赤血球製剤) の選択
Rh	あり	抗原陰性
Duffy	あり	抗原陰性
Kidd	あり	抗原陰性
Diego	あり	抗原陰性
S, s	あり	抗原陰性
Kell	あり	抗原陰性
M (間接抗グロブリン試験*陽性)	あり	抗原陰性
M (間接抗グロブリン試験*陰性)	なし	選択の必要なし
Le <sup>a</sup> (間接抗グロブリン試験*陽性)	あり	抗原陰性
Le <sup>a</sup> (間接抗グロブリン試験*陰性)	なし	選択の必要なし
P1, N, Le <sup>b</sup>	なし	選択の必要なし
Xg <sup>a</sup>	なし	選択の必要なし
高頻度抗原に対する抗体		
JMH, Knops, Cost, Chido/Rodgers	なし	選択の必要なし
Jr <sup>a</sup>	あり	抗原陰性が望ましい
その他高頻度または低頻度抗原 に対する抗体	特異性、症例により異なる	輸血認定医、輸血認定 技師または専門機関に 相談

反応増強剤無添加-間接抗グロブリン試験 (37°C, 60分)

(表1) 赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン(改訂2版)より抜粋

(中四国ブロック血液センター 検査一課 紺谷 圭奈美)

# ハロウィン献血キャンペーンを実施しました!

島根県赤十字血液センターでは、採血課の新たな試みの一つとして、看護師目線での情報をセンターのホームページとFacebookに「ナース通信」として定期的に発信しています。献血者の声を聞きながら旬な話題や様々な内容を発信し、献血への興味や関心を高めていくことが目的です。

今年6月には、松江母体(名称:献血ルームだんだん)における安定的な献血者確保を目的に「母体献血強化作業部会」を設置し、一つの取組みとして移動献血車内に母体への地図掲示をしています。母体の存在をPRすることで来所していただくきっかけを作り、母体では要請依頼リストを作成、来所者には次回予約を促進しています。また、1日あたりの献血受付数と前日までの献血予約数に目標値を設定し、その結果を職員が共有することで職員の意識付けもしています。

10月17日～31日に島根センターでは初となる「ハロウィン献血キャンペーン」を実施しました。部会メンバーを中心にホールや採血室に装飾を施し、ハロウィンかぼちゃも作りました。

玄関ホールで献血者を出迎えるけんけつちゃんも帽子とマントで変身です。設置したメッセージボードには、献血者にフリーメッセージを貼っていただきました。心のこもったカードが次々と貼られ、ボードを増設しなければならぬほどでした。期間中に献血のご協力をいただいた方全員に、くじ引きをしてもらい、記念品をプレゼントしました。初めての試みは大好評で、来所していただいた方々から「いつもと雰囲気違ってびっくりした!」「写真を撮って帰ります!」など嬉しい声をいただきました。



今後も献血者確保に向け様々な情報発信とイベントを企画し、職員全員が「おもてなし」の心で関わっていく必要があると感じています。部会メンバーが中心となり島根センターの変革を目指します!!  
(島根県赤十字血液センター 採血課 天野 亜由美)

